

平成 26 年度 第 2 回栗東市市民参画等推進委員会 会議録

- 日 時 平成 26 年 11 月 19 日（水）16:00～18:00
- 場 所 栗東市役所 2 階 第 4・5 会議室
- 内 容
  - 1. 開会
  - 2. 市民憲章唱和
  - 3. あいさつ
  - 4. 報告事項
    - (1) 平成 27 年度実施事業選考状況について・・・資料 1
      - ①協働事業提案制度
      - ②栗東市市民社会貢献活動促進基金補助金（元気創造まちづくり事業）
  - 5. 協議事項
    - (1) 市民参画と協働によるまちづくり推進条行動計画  
策定中間報告（案）について・・・資料 2
  - 6. その他
  - 7. 閉会
- 出席者 新川委員長、小松委員、高宮委員、池田委員、吉仲委員、西川委員、幡委員、寺井委員、  
野村市長、井上部長、木村課長、井上課長補佐、津田主事、北村主事補

●議事記録（概要）

- 1. 開会  
進行：事務局
- 2. 市民憲章唱和
- 3. あいさつ  
新川委員長、野村市長
- 4. 報告事項 進行：委員長
  - (1) 平成 27 年度実施事業選考状況について・・・資料 1
    - ①協働事業提案制度
    - ②栗東市市民参画貢献活動促進基金補助金（元気創造まちづくり事業）資料説明：事務局

## 平成 27 年度実施事業に対して審査委員として

(委員)

地域振興協議会（以下、地振協）コースが全学区で出揃ったが、各学区の課題をよく把握しておられるという印象を受けた。かまどベンチが多数あるが、それぞれどのように導入し、それを生かしてどう活動につなげていこうかなどで工夫されており、これからは期待できると思った。

1つお願いしたいこととして、他の審査委員からも指摘があったことだが、元気創造まちづくり事業という同じ事業のなかでかまどベンチを利用した活動に取り組んでいるので、是非情報交換・共有をしてお互いに学び合うような関係になっていただけると、活動に広がりが出てきていいと思う。

(委員)

地振協については、それぞれの学区の地域性が出ていて、また、選考事業全体では、無理なく継続して活動を行えるような工夫もされていて、いい活動になりそうだった。

## 防災かまどベンチの事業について

(委員)

資料だけを見ているとどれも似通っているように見えるが、どの辺に地域性があるのかお聞きしたい。かまどベンチの活用について、実効性があるのか疑問に思うところがある。

(委員)

審査委員会のなかでも、かまどベンチを設置しただけで終わってはいけないという意見は何回も出ていて、その活用方法については常に問いかけている。一番多く返ってくる答えとしては、防災訓練のときに積極的に使うというものがあるが、実際に使っているのかはっきりと見えてこないというところもあるので、各学区間で一度情報交換・共有をしてみてもどうかと提案させていただいた。

(事務局)

かまどベンチに一番初めに取り組まれた治田東学区地振協を先例として、他の地振協でも取り組んでおられる。活用方法としては、避難訓練や防災訓練での使用がある。実際使われてみて、1基だけでは少ないのではないかという話になり、2基目を作られている自治会もある。2基目は元気創造まちづくり事業ではなく自治会独自で作っておられ、活動に広がりが見えてきている。

かまどベンチは、普段は憩いの場として、そして災害時にはかまどとして利用できる

ということで、どの地振協も防災意識を向上させるきっかけになるものとして位置付けていこうと取り組んでおられる。治田東学区地振協においては、かまどベンチ設置に付随して、防災意識の向上を目的として、今年度から来年度にかけて防災マップを作成される予定。また、市で各学区地振協の連絡会を開催させていただいているので、その場で情報交換・共有ができるよう、各学区の事業の情報について出させていただくようお願いしている。

(委員長)

元気創造まちづくり事業における地振協の事業は、まだまだ手探りの状態で活動に取り組んでおられるというところもある。栗東市を含め色々な場所で災害が発生し、防災への意識が高まっている状況があるので、その手始めとしてかまどベンチは比較的取り組みやすいものだと思う。ただ、かまどベンチを設置するだけでは元気創造にはならないので、これをどのように活用していくのかを考え、これからの地域づくりのための便利な使いやすい道具に皆で仕立て上げていただく、そのような工夫が必要なのではないかと思う。また、その他の事業についても、各団体で工夫をしていただくことが大事なのではないかと思う。お互いに情報交換をし、色々な活動について知るなかで、新しい工夫の仕方を考えていっていただければと思う。

## 5. 協議事項

### (1) 市民参画と協働によるまちづくり推進条行動計画

策定中間報告(案)について・・・資料2

資料説明：事務局

#### 情報の提供・共有について

(委員)

計画に書かれていることを全てやっていくのは大変だと思う。全部を一遍にやっていくのは無理だと思うので、優先順位を決めて実施していくのだと思うが、実施していくにしても具体的なイメージがないと進めるのも難しい。今の時点でどこまで具体的なイメージを持っているかお聞きしたい。お聞きしたいのは、

- 1、2) 情報の提供・共有 【今後の課題】の「市民等が話し合える場」や【取り組み概要】の『活動団体やグループの間の交流ができる「場」や「機会』』の具体的なイメージは
- 2、質問1と同箇所の【取り組み概要】の「活動に役立つ情報」のところで、一方向のものではなく双方向のものとの説明があったが、双方向としての情報の公開・提供を実現していくための手法の具体的なイメージは

(事務局)

1、事務局としては団体同士が話し合えるフォーラムのようなものを考えているが、今後団体の意見を聞くなかで、「場」や「機会」としてどういったものが有用なのかさらに具体的なイメージを広げていきたいと思っている。

2、行政改革プロジェクト会議で、職員の意見を聞くなかでも、現状では一方向な情報の提供となっているとの意見が出ている。内部や外部との協議を踏まえて工夫していければと思っている。

#### 行動計画の実施内容について

(委員)

この行動計画は新たに考え出して行おうとしているのか。従来からやっているものもあると思うが。

(事務局)

これまでも本委員会でも多くの意見をいただいていたが、なかなか全庁的に動けていないという現状があるので、その反省をもとに、行動計画として立ち上げて職員が協働に対しての意識を向上させ、市民に投げかけて意識の向上を促すといったことを実行に移していきたいと思っている。行動計画とするなら、具体的に何をするのが中心になるのが本来であるが、今回の行動計画については、条例を推進するための計画として策定する。こういったことを踏まえて、今後全庁的にしっかり取り組んでいくということでこの計画を位置付けている。

(委員)

例えば、市長への手紙等で市民への広聴は既に行っていると思うが、その成果を踏まえて、新たに作ってやっていこうということなのか。

(事務局)

既に制度として実施していても認知度が低いものもあり、市民への認知度を高めていくなかで継続して取り組んでいきたいと思っている。既に行っている事業でも、見直ししながら継続してやっていくことが大事だと思っているので、そのような内容も行動計画のなかに入れていく。現状に満足せず、必要ならば新たなものも加えていくというスタンスでいる。

(委員)

2)情報の提供・共有 【今後の課題】で「情報の共有化や連携が図れるよう、市民等が話し合える場や市民への周知が必要」とあるが、その通りだと思う。以前までは、ボランティアをやってもらっていることが当たり前のことだと市の職員が思っているように感じていた。しかし、その職員のボランティアに対する姿勢もだいぶ変わってきており、ボランティアと連携をとってくれるようになった。このように、対話ができて協働の心をもった職員を育てていってほしいと思う。ボランティアの皆さんは一生懸命にやっておられるので、その人たちの話を親身になって聞いてくれる仕組みをしっかりとした形で充実させていってほしいと思う。

#### 目標・指標について

(委員)

目標として「意識が向上しないと行動につながらない」というのは当然のことだが、指標として「意識の向上」というのは弱く曖昧で、何を具体的にすればいいのか見えてこない。もう少し具体的にしないと伝わらないのではないかと思う。

(委員)

目標として、基盤づくりが進んだから行動につながった、という解釈の仕方もあり、どこまで基盤が整ったか、というのも指標として考えられるのではないかと思う。

(事務局)

目標・指標を設定する際に、総合計画（以下、総計）と整合を図っていきたい。

(委員)

意識を向上させることが目標なのではなく、行動につなげることが目標なのだから、基盤づくりがここまで進んだということを上手く指標にできないかと思った。目標は今のもままでいいと思うが、指標の設定がやはり弱い。

(委員)

ここで数値化するのは難しいのではないかと思う。むしろ、総計において、具体的にどのような成果があったのか、そういうところの表現になってくるのではないかと思う。

(事務局)

総計のなかで協働に対する意識調査をしていく予定で進めている。

(委員)

県政モニターに参加しているが、栗東市に市政モニターはあるのか。

(事務局)

ない。

(委員)

指標の具体的な方法としてやるといいのではないかと思った。

(委員)

市政モニターをやるなら登録しなければならず、登録する時点で意識の高い人が集まるので、この行動計画の指標としてはどうなのかとも思う。

(委員)

意見を言える制度として作ってみるといいのではないかと思い提案した。

#### 環境づくりについて

(委員)

- 1、3)環境づくり 【取り組み概要】で「市役所内の組織体制を整え」とあるが、今の段階での理想像や具体的なイメージとしてもっているものがあれば聞きたい。
- 2、質問1と同箇所の【取り組み概要】で「ネットワーク」とあるが、ネットワークといっても緩いものからきっちりとしたものまで色々あるが、どんなイメージをもっているか聞きたい。

(事務局)

専門的な相談を受けたりアドバイスをしてくれたりする方がおられると、市と市民との協働もスムーズに進んでいき、活動もより活発になるのではないかと考えている。

(事務局)

職員の間でも、団体間の横のつながりが弱く、団体同士で交流できる場がないという意見が出ている。また、そのような場は実際にはあるのかもしれないが、職員がその存在に気づいていないということもあると思う。

もう一つ言われているのが、大学や企業等との連携で、企業なら、昨今では防災を切り口として応援協定が結ばれてきている。大学であれば、その知や学生の力を活用して事業を進めていく。このような環境づくりも必要だと考えている。

(委員)

今年のなごやかまつりでは、実行委員会のなかに高校生が入ってくれて、今までにない新しい意見も出てきた。まつりの最後まで関わってくれて良かったと思った。こういう関わりが継続的に行われればいいものが生まれてくると思う。

(事務局)

そのようなネットワークがあれば、その存在をもっとたくさんの人に知ってもらい、ということも必要になってくると思う。栗東市ボランティア市民活動センター（以下、ボラセン）とも協力しながら、また共に学びながら進めていければと考えている。

(委員)

どのような経過で高校生は参加してきたのか。

(委員)

ボラセンが中心になってやってくれた。学校のなかにボランティアグループを立ち上げているという話を聞いた。

(委員)

これは、行動計画のように力まなくてもつながりはできるという良い例だし、この感覚を大切にしていけることが大事だと思う。このような連携がどうやってできているのかを行政が本気で考えていくなら、研究されてはどうかと思う。

(委員)

一緒にまつりを通して活動したことで、今までより活動の内容に広がりが出たと感じる事ができた。

(委員)

地域を見ていると、退職された方がたくさんおられる。そのような人たちの力が一つに集まれば、結構大きな力になると思う。何かきっかけがあれば、人は結構集まるし、活動の活性化のポイントとなると思う。ただ、呼びかけをして集まってくる人は既に何らかのボランティアをしている人たちが大半で、今そういった活動をしていない人たちがまちづくりに関われる方法を見つけられればと思う。地域のまつりや掃除など、自治会のイベントでも参加者が少なくなっているという現状もあり、難しい問題だと思う。

(事務局)

「担い手の発掘・育成の充実（市民）」でも、活動に参加する意欲があっても参加の仕方が分からないといった課題を挙げさせていただいている。

行動計画の内容について、しっかり具体的に決めるものや、緩く設定して柔軟に対応できるものも必要と、委員長にご意見をいただいたので、そのような方向で策定していければと思っている。

#### 進行管理、アンケート等について

(委員)

1、2章を踏まえた内容が3章になっているので、3章の内容がもう少し具体的になってくるといいと思う。その例を解説として添付資料としてつけて、そこに新しい意見・方策等を加えていくのもいいかもしれない。

全体に対して定点観測（進行管理）を行うことが大事になってくると思う。現状の評価をしつつ、追加すべき新しい意見を気軽に出し合える場を定期的に設けることができればいいと思う。人が変わるとその評価にもバラつきが出てくるので、一定のメンバーで市の事業等を俯瞰して評価できるような体制があればと思う。

「市民」との表現が市民個人のことを指しているのか、それとも市民活動団体や事業者などのことも指しているのか、曖昧な表現で分かりにくくなっている。例えば協働事業提案制度では団体が単位となっており、今の状況では、市民が個人で深く活動するのは難しいと思うので、グループになっての活動が大事になってくる。どの団体でも何か共通のテーマや目的をもって活動しているわけだから、それに関心をもったり共感したりする方が必ず出てくると思うので、団体側から市民に呼びかけて会員になってもらえるような仕組みがあるといいと思う。

その観点から、どのような団体に所属しているかというアンケートをとることで、どれだけ協働が市民に浸透しているかを把握でき、良い指標となると思う。

パブリックコメントは紙に書いて出す例が多いが、実際には面と向き合って話し合うほうが色々な意見が出てくる。また、そのほうが、意見が出てきた過程も見えてくるので、さきほどの定点観測の点も含めて、そのようなことができる場が必要ではないかと思う。

さきほど企業との連携の話があったが、私にもNPOを立ち上げた経験があるが、その時には会員を増やすということで、企業や大学の先生等から寄付していただいた。最終的には独立し全国展開にまでなり、補助金をもらわなくても活動できるようになった。このような方法もあるので参考にしてもらえればと思う。

## パブリックコメント等について

(委員)

地振協は栗東市のなかで協働によるまちづくりを行っている最たるもので、素晴らしい組織だと思っている。市との協働を進めるに当たり、一番には職員の方に協働の考え方を徹底してもらいたいと思う。行動計画についてはこれでいいと思う。細かいところまで書けないものもあるし、市民が考える問題でもあると思うし、市民がやりたいと思う活動をできるようにもっていくのが本来であるので、この計画案の書き方でいいのではないかと思う。

1つ気になるのは、パブリックコメントについてであり、意見が全く出てこなくても市民には聴いたとされているので、実施するのであれば市民の意見をどのように反映させたのかしっかりと示してほしい。また、パブリックコメントは行政では十分認知されている言葉かもしれないが、市民一般はほとんど知らない。この行政と住民とでの認識の差をよく理解していただいて、その差を埋めていけるような計画にしていただければと思う。行政が当たり前だと思っていることをこの機会に掘り下げていただければと思う。

(委員長)

市民参画において、行政と市民で意思疎通できていないところがある。もっと市民参画が進むように具体的な努力をしていただく必要があるのではないかと思う。

## 人材の発掘等について

(委員)

目標や指標の話が出ていたが、地域福祉と同じで、どのような表現にしたらいいのか難しい問題であるし、数値で測れない部分が多いものだと思う。これからは色々な分野において、団塊の世代の力が大きくなってくると思うし、退職した後の人生をどうやって過ごすのかというなかで、どこに相談していいのか分からない方もおられるので、その方たちをどのように捕捉してどのように対応していくのが課題になってくると思う。

また、情報の発信においては、口コミのものが大きな役割を担ってくると思う。誰かが断片的にもっている情報でも、人のつながりで広がりをもってくると思う。

## 人材育成、職員研究会について

(委員)

・人材育成

他市で連続講座として市民講座をされているところがある。例えば、米原市なら、「ルッチ大学」というものを十数年されてきて、まちづくりのために働く人を育てる

という明確な目標が立てられている。まちづくりで活躍されている方が講師として話をされ、その卒業生がグループとなりいきいきと活動している、という事例がいくつもある。その卒業生が増えてくれば、そこにネットワークが生まれるので、市民活動の良いネットワーク作りにもなる。

#### ・職員研究会

テーマとして、例えば、市民と対等な形で話し合うスキルを身につけるファシリテーター養成の研究会をしていただくといいのではないかと思う。委員からの意見にも、市民の声が聞えていないのではないかというのがあったが、その研究会で育った職員が、地域に出て行って、市民と互いに対等な立場で意見を言い合える会議を行えるようになることが、協働の第一歩になるのではないかと思う。

### 委員長まとめ

(委員長)

計画それ自体についても多くのご意見をいただいた。総計と調整をしながら、まとめていく必要がある。計画の目標についても、総計や第七次行政改革大綱との関係もあるが、やはり市民参画協働の計画としてしっかりと目標を立て、その具体的な到達点を示すことが必要ということだった。もちろん、数字で表せるかどうかは分からないが、例えば、団塊の世代をたくさん取り込むというのも1つの指標となる。地振協の活動がもっと活発になっていき、全ての学区で毎年たくさんの活動を継続して行っておられる状態を目指す、というのも指標となる。行政としての基盤づくり自体を計画の到達点にして、それをしっかりさせるというのも指標としてありうるのではないかと思う。

「市政への参画」については、これがまだまだ不十分ということだった。市側の取り組みもあるし、市民の意識もあるかもしれないが、両者をつなぐ具体的な仕組みが不足しているというご意見をいただいた。

「情報の提供・共有」についても、どういう場でどんな風に具体的にやるのか。何もかもではなく、こういうところを通じてやるという具体的なものが1つはでてこない、この項目の実現は難しいと思う。この行動計画を引っ張っていくというコンセプトをもって考えていくといいのではないかと思う。

「環境づくり」については、中間支援機能についての話もあったが、総合的に考えていく必要がある。ネットワーク作りの話もあったが、単に寄せればいいというものではなく、本当に興味を持っている人たちが集まってきやすいテーマがあって、皆で共有して、そこから新しい活動が生まれてくる、そういう場を継続的に設ける必要があるのではないかとのご意見もいただいた。

「担い手づくり」も、ただ研修をやるというだけでは、担い手づくりにはならない

ので、職員についても市民についても、もう少し具体的に考えないといけないと思う。

「市の推進体制」についても同様。体制の整備についても、職員の意識向上についてもどこまでやるのかという問題がある。また、庁内的には、進行管理をどうやってやるのかを3章以下で改めてご提示いただければと思う。

あれもこれもとなると大変なので、皆さんの意見を整理して、次回に向けてご議論いただければと思う。

## 6. その他

第3回 栗東市市民参画等推進委員会 開催日

平成27年3月1日（日）午後 ※午前中は成果報告会の予定です。

## 7. 閉会